

ONE WORLD Info

英語教育 通信
2019 Spring

特集
教科書の素材を
生かした指導



教育出版



教科書のCulture Notesの番外編として、海外のリアルな情報をお届けします。第2回は日本とアメリカにおける中学校の制度の違いについての話題です。アメリカでは、生徒一人一人の自己管理能力が問われる場面が多々あるようです。アメリカでは、中学生は「もう大人」ということなのでしょうか。

まるで大学？ 自己管理能力が問われる中学生

アメリカと日本の学校制度の違い



桜の花開き、鳥がさえずる4月。暖かい陽気に包まれながら「新しいクラスはどんなだろう」と期待に胸を膨らませるのが、日本の新年度ではないでしょうか。対してアメリカでは、新年度は10月に始まります。暑さが終焉に向かい、風が冷たくなってくる時季。「空気がきりりと締まってくる頃に1年が始まるので、気持ちも引き締まる」という声も聞きます。

違いはそれだけではありません。まず、アメリカには入学式や始業式がありません。年度の初日でも、生徒たちは普段通り各自のクラス（ホームルーム）へ向かいます。そこで担当の先生が出欠をとった後、それぞれ自分の授業が行われる教室へと移動します。中学校（日本でいう6年生、11～12歳）に上がると、好きな授業をある程度選択できるようになり、加えて成績順でクラスが分けられる科目もあるため、生徒間で時間割が異なるのです。

ホームルームは単に「出欠を取るだけの部屋」であり、日本のように学校生活の大半を過ごす場所ではありません。自分の机もなく、廊下に置いてあるロッカーが唯一の所有物。そこから教科書を取り出し、毎回授業が行われる教室へと移動するのです。大学のスタイルを思い浮

かべていただければぴったりです。

担当の先生というのも「出欠を取るだけの人」。中学校の先生は、自分の授業を選択している生徒たちの成績は把握していますが、それ以外の科目についてはノータッチです。生活指導や部活動の指揮といった業務もありません。学習指導要領のような国のガイドラインもなく、各自の裁量で授業を進めます。日本の先生方と比べると仕事量は少ないのではないのでしょうか。

では生徒の生活態度や全体的な学習の進捗状況はどうなっているのかというと、スクールカウンセラーと呼ばれる人たちが管理しています。しかし全校生徒に目を行き届かせるには限界があるため、生徒が自分で自己管理することが求められます。

こうした「クラスなし・担任不在」の制度は中学校から始まります。小学校では日本と同じように担任の先生がいて、丁寧に勉強や生活面の指導をしてくれていたのに、突然自己責任の領域が増すのは、それだけ中学生が「もう大人」と思われているからかもしれません。

（文：大井 美紗子／写真：株式会社アマナ）

もくじ

Culture Notes Plus Vol. 2 アメリカ

まるで大学？ 自己管理能力が問われる中学生 大井 美紗子..... 2

特集 教科書の素材を生かした指導

英文を読み取る力を育むための発問の工夫

濱井 裕子（広島県広島市立五日市中学校）..... 4

授業をアクティブに！

大竹 希依子（東京都八王子市立長房中学校）..... 7

連載 英語教育なんでも相談室04

音読のバリエーションをふやすにはどのような方法があるか

本多 敏幸（東京都千代田区立九段中等教育学校 指導教諭）..... 10

とっておきの英語17

Always be yourself.

I'll love you forever.

（映画『ピリー・エリオット』より）

野田 小枝子（津田塾大学大学院 教授）..... 12

今ドキ英語事情19

Understanding reactions: A talent?

ピーター J. コリンズ（東海大学 教授）..... 14

英語教育通信『ONE WORLD Info』2019年春号をお届けします。

本号では、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業を目指して、

「教科書の素材を生かした指導」を特集とし、

ONE WORLDをお使いの先生方から寄稿いただきました。

連載記事も併せて、ぜひ授業のあいまなどにお楽しみいただければと思います。

英文を読み取る力を育むための 発問の工夫 ～事実発問と推論発問に焦点を当てて～

広島県広島市立五日市中学校
濱井 裕子



英文を読み取る力を育むために

平成27年度に、広島市の教員長期研修生として、英語の研究に取り組む機会をいただきました。

それまで、「読むこと」の指導において、生徒に英文を読み取る力をどのように育むのか、試行錯誤しながらも、悩んでいました。そこで、読み取る力を育むための手立てとして、発問の工夫を取り入れて研究を進めることにしました。

英文の読み取りで、発問をどのように組み込んでいけばよいか、実際に授業でおこなったことを例に出しながら、ご紹介したいと思います。

平成29年7月に告示された『中学校指導要領解説 外国語編』1目標 (2) 読むことの指導事項イでは、「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」と明記されています。「概要を捉える」とは、「例えば物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることである」と書かれています。

上記のような力をつけ、英文を読み取る力を育むためには、どのような指導が有効であるか。そこでたどり着いたのが、発問の工夫でした。

発問のタイプと特徴について

田中・田中 (2009) によると、発問が、教材への興味を引き出し、正しい理解や深い思考、豊かな表現を導き、知識活用のサポートをする役割があること、田中他 (2011) は、発問が、英文に対する正しい理解や深い思考を促すことに有効であることを述べています。また、発問を事実発問、推論発問、評価発問の3つのタイプに分け、それぞれの特徴について述べています。

田中他 (2011) が示す 発問の3つのタイプとその特徴

事実発問 (fact-finding questions)

- ・英文上に直接示された内容を読み取らせる

推論発問 (inferential questions)

- ・英文上の情報をもとに、テキスト上には直接示されていない内容を推測させる

評価発問 (evaluative questions)

- ・英文に書かれた内容に対する読み手の考えや態度を答えさせる

また、推論発問における役割について、田中他 (2011) は、次の5点を挙げています。

田中他（2011）が示す推論発問における役割

- 英文の細部を必然的に読み取らせる
- 英文の具体的な理解を促す
- 英文を異なる角度から繰り返し読ませる
- 英文全体の意味を読み取らせる
- 英文の主題の理解につながる深い読みを促す

さらに、「深い読みの指導のためには、生徒が英文の文字通りの意味や、事実関係の把握を十分にできていることが前提」となると述べており、推論発問に答えるためには事実発問に答えることが前提であることを示唆しています。

このことから研究では、事実発問、推論発問に焦点を当て取り入れ、英文を読み取る力を育てることをねらいとして進めました。

ONE WORLDの教科書における実践

それでは、以上のことを含めて、発問の工夫をどのように取り入れたのか、実践例を紹介します。今回は、「ONE WORLD 2 Reading Lesson 1 Short Funny Stories “Sherlock Holmes Goes Camping”」という物語文を取り上げます。

なお、発問の工夫については、以下の4点に留意しながら進めます。

【留意点】

- 何度も読み返ししながら英文の理解を深めることができるように、易しい発問から難しい発問、概要を問う発問から詳細を問う発問へと、発問の配列を工夫すること
- 一度にある程度まとまった数の発問を行うこと
- 個人で考える時間を確保すること
- 多様な読み取り方があることを知り、読みを深められるように、ペアやグループで協議する時間を確保すること

また、授業では、発問が文字として残った方が生徒には分かりやすいと考え、パワーポイントで表示しながら発問を提示することが多いです。また、留意点に示したように、一度にいくつかまとめて発問をして、生徒に思考する時間を必ず与えています。



発問をおこなっている様子

STEP 1 全体、概要を問う易しい発問（事実発問）

まずは、事実発問をおこない、英文を見てすぐにわかること、特に易しい発問からはじめます。

(発問例)

- ・ How many people are talking?
- ・ What are their names?
- ・ Where do they go? など

STEP 2 詳細を問う発問（事実発問）

次に、英文の中身に踏み込んで理解するために、英文の詳細を問う事実発問をおこないます。この事実発問は、教科書のQ&AやT/Fを参考にしながら問うこともあります。STEP 2 からは、英語が苦手な生徒のためにも、思考する時間をとった後、グループで協議して確認をする時間を確保しています。

(発問例)

- ・ What do they set up?
- ・ Does Watson wake Holmes up? Yes or No?
- ・ Why do they see thousands of stars in the sky? など

答えを確認するときには、答えとなる箇所や、英文の表現を述べさせ、根拠を必ず述べさせるようにしています。

STEP 3 推論発問

最後に、推論発問をおこないます。なお、田中他(2011)は、物語文での推論発問のパターン例として、以下の6点を示しており、このパターンに沿って、発問を考えています。なお、会話文、説明文におけるパターン例は割愛します。

物語文での推論発問のパターン例

- 行動の目的や意図を推測させる
- 場面や状況を推測させる
- 人物の心情や性格を推測させる
- 行動や出来事の結果を推測させる
- 英文にはない行動や言葉を推測させる
- 英文全体の主題を推測させる

(発問例)

- ・ワトソンとホームズは、それぞれどんな性格だと思えますか。それは、どの部分からそう思いましたか。
- ・この英文のタイトルには、Short Funny Storiesと書いてあります。この英文のこういったところがFunny storyなのでしょう。

推論発問をおこなう時に必要だと感じているのは、「いろいろな答えが出てきて良い」ということを生徒に伝えることです。英文のどこを読んでその解答にたどり着いたのか、ということを確認しながら、肯定することで、さまざまな意見が出てくる雰囲気になります。また、グループで話し合っ、ホワイトボードに書いて表示したり、さまざまな答えと比較することで、生徒自身が自身にはない視点を見つけ出して、英文をより深く理解できるようになります。以下は、発問の生徒の解答例です。

【ワトソンとホームズの性格について】

ワトソン→のんきな性格、鈍感、やさしい

《理由》

- ・テントが盗まれているのに、we'll have nice weather. と言って、何も気づいてなさそうだから。
- ・we'll have nice weather tomorrow. というのは、盗まれたのに気づいてたけど、ホームズを元気づけるために言ったのかもしれないから。

ホームズ→せっかち、冷静

《理由》

- ・Holmes wakes Watson up. とワトソンをすぐ起こしたから。
- ・ワトソンから聞かれたことに、it means that someone stole our tent. と冷静に答えていたから。状況が分かっている。

【Funny Storyのどこがfunnyなのか】

- ・2人の会話がまったくかみあっていないところ。

- ・本当はテントが盗まれているのに、それに気づかずワトソンがI see thousands of stars. とか、we'll have nice weather. とか言っているところ。

終わりに

研究をおこなったことで、以下のことがわかりました。

- 発問の工夫をおこなうことで、英文を読み取る力がある程度向上したこと
- 発問の工夫をおこなうことで、英文の読み取りに対する心情が前向きに変化したこと

ただし、読み取りをおこなううえでは、単語を理解する力が大きくかわってくることもわかりました。また、授業の留意点で述べたように、ただ発問の工夫を取り入れるだけではなく、グループ協議を取り入れること、発問の配列を工夫することなども、重要だということが見えてきました。

3年前に研究の機会をいただいたことで、私の教科書本文の扱いは、大きく変化しました。もちろんうまくいかないことも多く、教師としてのセンスを問われることもしばしばあります。しかし、発問に対して、生徒が興味深い解答を返したり、読み取りが苦手な子が、一生懸命取り組んで答えることができたりと、発見もたくさんあります。

課題は、まだまだたくさんあります。目標は、推論発問を英問英答でおこない、生徒同士の意見を英語で交わすことができるようになることです。発問のタイプで示した評価発問に対しても、取り入れてはいますが、まだまだ不十分なので、その部分も、もっと勉強しなければいけません。これからも、生徒に力をつけるために何が必要か考え、授業を組み立てていきたいと思っています。

〈参考文献〉

文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）』

田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸（2011）『推論発問を取り入れた英語リーディング指導 深い読みを促す英語授業』三省堂。

田中武夫・田中知聡（2009）『英語教師のための発問テクニック-英語授業を活性化するリーディング指導』大修館書店。

授業をアクティブに!

～教科書Taskの扱い方の工夫～

東京都八王子市立長房中学校

大竹 希依子



次期学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力の3つの柱が示され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取り組みを活性化していくことが、ますます重要になっています。

これからの社会に生きる子どもたちに身に付けてほしい資質・能力として挙げられているのは、次のようなことからです。

- ①「何を理解しているか、何ができるか」という知識・技能
- ②「理解していること・できることをどう活用するか」という思考力・判断力・表現力
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」に含まれる、学びに向かう力や協働する力

つまり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることを素地に、簡単な情報や相手の考えを理解した上で、聞き手、読み手、話し手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度及び力を養うことが求められています。

このような態度及び力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」をどのように授業で実現させていくのか、今回は、各Lessonの末尾に掲載されているTaskに焦点を当てて話を進めていきます。

●レッスン名

1年生Lesson 6 Jump Task

●Speak

ペアになり、ひとりがスポーツ選手かミュージシャンに、もうひとりがレポーターになって、インタビューしよう。

●例 野球選手に

A: When is your next game?

B: It's on November 21st.

A: Where is the game?

B: It's in Yokohama.

さて、教科書通りにこの活動に入る前に、考えなければならない、私が大切にしている視点が4つあります。

- ①生徒は、この活動ができるのか。
- ②生徒は、この活動に意欲的に取り組めるのか。
- ③私は、この活動を楽しめるのか。
- ④この活動を何のためにやるのか。

4つの項目のうち、ひとつでも疑問符が付くと、授業内におけるこのTaskはなかなか機能しません。

①いきなりはできないので少し準備が必要。

では、どんな準備が必要かを考える。

②③ただ生徒2人にインタビュー会話をさせてもあまり楽しくはないのではないかと。

では、どんな工夫をすれば私も楽しく、生徒も

意欲的に取り組めるのかやり方を考える。

④疑問文とその答え方の活用。

そこで、私は、このTaskを教室内で成立させるために少しの準備とやり方の工夫を考えました。

Taskのタイトルを「誰にインタビューしているのか当てっこゲームをしよう!」と掲げ、まずはペアで作問を考えさせました。私が考えたインタビュー会話をいくつか披露すると、生徒は当てようと必死です。

点数は1つの応答で誰かを当てることができれば5点、2つなら4点…などとし、全部のインタビューが終わっても誰も当てることができなければ、インタビューを作成したペアに5点を付与するというやり方にしました。

以下は生徒の考えたインタビューです。私は思わず、「うーん」とうなっていました。

Q: How old are you?

A: I'm 23 years old.

Q: When is your birthday?

A: It's December 7th.

Q: What color do you like?

A: I like red.

Q: What is your favorite food?

A: I like a cake.

(ここまでで分かる方いらっしゃいますか?)

私は全く分かりませんでした。聞いている生徒も色々な人を挙げてチャレンジするものなかなか当たらず…)

Q: Are you from Tokyo?

A: No, I'm not. I'm from Miyagi.

(どうでしょうか!? 次はラストです!!!)

Q: What characters do you like?

A: I like Winnie the Pooh.

(皆さん、お分かりになりましたでしょうか? そうです、正解は…)

Q: What sports do you like?

A: I like skating.

正解は、「羽生結弦」選手です。これまで(ここではLesson6まで)学習した疑問文とその答え方を用いて、ここまでよく考えられたものだと感じました。上記の例以外にも、友達や先生、自分の好きな歌手、アイドル、スポーツ選手などイ



ンタビュー相手は多岐に渡り、とても楽しかったです。

そして、「なぜこのTaskをするのか」、その目的を見失わないことが大切です。このTaskの目的は④で挙げたように「疑問文とその答え方の活用」です。

しかし、その準備段階で、しばしばこのようなことが起こります。

生徒「先生、〇〇〇〇って英語でなんて言うんですか?」

聞きたいことを教員に教えてもらおうとする場面です。もしここで私が「それは△△△と言うのだよ」と、その表現や文を生徒に教えれば解決は早いかもしれませんが。生徒も納得するし、こちらとしてもより多くの生徒の質問に答えることができ、効率的かもしれません。ただ、生徒の頭の中では、これまで学習した疑問文とその答え方を全く活用していないこととなります。これでは、「ただ活動をした」というだけで、肝心の目的や、活動をする意義が置き去りにされてしまいます。

そこで私は、この活動の準備段階で、生徒にこのように伝えました。「私もこのゲームに参加します。だから、私にもヒントになるインタビューの内容は内緒にしてね!」

生徒は、私に当てさせまいと、インタビューを自分(たち)で、どうか考え、作り上げようとします。どうしても分からないことがある場合も、「〇〇〇〇って英語でなんて言うのですか?」と文章表現をそのまま尋ねるのではなく、もっとポイントを絞った質問をします。教科書や辞書を調べ、疑問点だけを解消しようという質問に自然と



変わります。先に挙げた生徒のインタビュー会話例には、既習事項のみが使われています。

「自分で考えなさい」「私は答えません」と言っていた時もありました。しかし、皆で学んでいこうとする雰囲気、学習環境を大切にしたいと思っている私に、それらの発言はどれもなじまないものでした。生徒には、自分の中にある表現を活用することで英語の力を高めてほしい、時間はかかっても自分で分からないことを解決できる糸口を見つけられるようになってほしいと私は考えています。

●レッスン名

1年生Lesson 7 Jump Task

●Write / Speak

あなたが考えたキャラクターを口にかき、例にならって、そのキャラクターの説明をしよう。

●例 This is Robo-kun. He can cook very well. He cooks lunch for me. He can play soccer very well, too. We often play soccer.

Lesson6の例と同様に、このTaskをとらえた時、「あなたが考えた」という点に、ハードルの高さを感じました。私自身がなかなかキャラクターを思い描けなかったのです。生徒も難しいだろうと予測しました。そこでやり方は前回と同じにし、Taskのタイトルを“Who is my hero?”「ヒーロー当てっこゲームをしよう!」としました。

次の例を考えた生徒は、部活で一緒にの憧れの先輩をヒーローとして出題しました。これらのヒントに含まれる未習語はrespectとpresident of the

student councilですが、前者は生徒自身が辞書を調べて「この言葉知ってる!」と合点していました。生徒会長という言葉はどうしても言い方を知りたかったようで、「へー、こういう風に言うのかぁ」と感心していました。

Hint 1: My hero is a girl.

Hint 2: She is very smart and friendly.

Hint 3: Her birthday is January 25th.

Hint 4: She is 13 years old.

Hint 5: Her smile is cute.

(ここまでで、色々な人が挙がりましたが、なかなか当たらず…。そんな中、生徒は「誕生日がきてないのに13歳! ってことは先輩! ?」と言っていました。さすがです。)

Hint 6: She is on the brass band.

Hint 7: I respect her as our leader.

(正解が見えてきました…)

Hint 8: She is our president of the student council.

英語が苦手な生徒も、以下のようなクイズを作りました。

Hint 1: My hero is a girl.

Hint 2: She is very cute.

Hint 3: She is very popular.

Hint 4: She is from Korea.

Hint 5: She is a good singer.

Hint 6: She is a good actress.

その後、クイズ形式の表現をもとに、相手により伝わりやすく書き直す活動につながりました。She is very cute and popular. のように内容をまとめたり、さらに友達がヒントで使っていた表現を取り入れ、自分の紹介原稿に加える学習をしました。

私たち教師が予想する以上に生徒は面白い、素晴らしいパフォーマンスをします。私自身も「思いつかなかった!」「なるほど～」と感心させられることばかりです。生徒のユニークで素晴らしい感性や表現力に触れて、一緒に楽しみ、英語の力をともに伸ばし磨いていく気持ちで、ぜひ教科書のTaskに取り組んでみていただければと思います。

英語教育 なんでも相談室

04

東京都千代田区立九段中等教育学校
指導教諭 本多 敏幸

中央教育審議会教育課程部会
外国語ワーキンググループ委員。
ELEC同友会英語教育学会会長、
英語授業研究会理事。

ONE WORLDの著者である本多先生が、
現場の先生方のお悩みになんでもお答えする連載です。
第4回目である今回は、どんなお悩みが寄せられたでしょうか。



今回のご相談

音読のバリエーションをふやしたいのですが、どのような方法があるでしょうか。また、音読をその後のプロダクション活動にどのようにつなげればよいでしょうか。

1. 音読を行う理由

なぜ音読を行わせるのでしょうか。次に挙げたいくつかの理由があります。

- ア. 本文に使われている言語材料を記憶に定着することができる（インテイク）。
- イ. 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの力を伸ばすことができる。
- ウ. 文字情報を音声情報に直すことができるようになる。
- エ. 英語の発音がよくなる。
- オ. 産出活動（アウトプット）に結び付けることができる。

授業の中で音読を行わせる機会は通常2回あります。1回目は、教科書本文を導入し、内容理解を終えた後の音読指導です。本文理解を行った直後なので、新出語句の発音には慣れていません。したがって、ここでの音読指導の目的は、文字情報を

音声で正しく表すことができるようにすることです。2回目は、次の授業の「前時の復習」で行う音読指導です。1回目の指導で本文を音読できるようになっているはずなので、ここでは感情を込めて音読させたり、次に行う産出活動に向けて練習させたりすることが主な目的になります。音読活動は1回よりも2回、3回と行かせたほうが言語材料等の定着につながります。それも1日の中で複数回行わせるよりも、1日以上インターバルを空けて本文に触れさせるほうが効果的です。したがって、ときどき過去に行った単元の本文を音読させるだけでも高い学習効果が期待できます。

2. 音読の方法

次に、音読のさせ方についてです。音読方法については一般的によく使われるものだけでも10種類以上はあるでしょう。例えば、声を揃えて音読

させるコーラス・リーディング (Chorus reading) だけでも、教師の後について1文ずつ復唱させる、教師の後について全文を音読させる、生徒のみで声を揃えて音読させるなどの種類があります。

生徒に何か活動を行わせるときには、その目的に合った適切な活動を選びます。音読も同じです。1で挙げた1回目の音読指導を考えてみましょう。本文理解の直後なので、本文が正しく読めることを目指した方法が最良となります。まだ本文に慣れていないことから、1文ずつ教師の後について復唱させる必要があるでしょう。ある程度読めるようになったら、バズ・リーディング (Buzz reading) を行い、生徒が自力で読めるようにするために個人のペースで音読する練習が必要となるでしょう。正確に読めるようになったか個人を指名して確認する必要もあるでしょう (個人読み, Individual reading)。音読のスピードを揃えたいのならば、オーバーラッピング (Overlapping, Paced readingとも呼ぶ) を行い、音声 (通常は教科書会社が提供する音声) に合わせて一緒に音読させる必要があるでしょう。

次は2回目の音読指導を考えてみましょう。ここでは、音読の後に本文 (対話文) のスキットを暗唱させ、1文以上を自由に加えさせて演じさせることにします。まず本文を正確に読めるか確認するためにコーラス・リーディングを行ったり、個人を指名して1文ずつまたはパート毎に読ませたり、登場人物の役割分担をして読ませたり (パート・リーディング, Part readingまたはPair reading) します。しかし、最後にスキットを行わせることを考えているので、通常の音読だけでは足りません。ペアやグループを決めたら、感情の込め方、間の取り方、ジェスチャーの付け方、加える英文などを話し合わせます。これらを考えさせることで、本文の理解をさらに深めることができます。

教師は音読の様々なやり方を知っておくべきです。しかし、目的を考えずにいろいろな音読方法を詰め込めばよいというものではありません。私

が主に行っている音読の種類は、コーラス・リーディング、バズ・リーディング、個人読み、オーバーラッピング、パート・リーディングくらいです。後はパッセージの難易度や目的に応じて他の音読方法を取り入れることがあります。音読の後にスキット、リテリング、なりきりスピーチなどの言語活動を行えば、生徒は自然と音読活動に熱心に取り組むものです。授業を始める前の休み時間にも音読練習をしている生徒を見かけるようになるはずです。

3. プロダクション活動につなげるために

プロダクション活動につなげるための方法については2でも書きましたが、リード・アンド・ルックアップ (Read and look up) がとても効果的です。これは、文を黙読した後、文字から目を離して言う活動です。音読からスピーキングへの橋渡しの活動としてよく行われています。

最後に、対話文でスキットを行わせるための効果的な指導手順を説明します。

- ①音読の後にリード・アンド・ルックアップを行う。初めは1文ずつ、次に登場人物のセリフのまともごとに行わせる。
- ② (登場人物が2名であれば、) 生徒全員と教師とに分かれ、自分のパートのセリフを覚える時間を1分間程度与え、その後、教科書を見ないで言い合う。その際、教師はジェスチャーを交えたり、大きさに感情を込めて言ったりすることでスキットを演じるときのモデルを示す。
- ③生徒同士をペアにし、2の2回目の音読のところで述べたことを考えさせる。
- ④生徒を立たせ、一斉にリハーサルを行う。

教科書本文の指導を行う際、音読が最終活動であってはけません。その後、音読を生かしたちょっとした言語活動を設定してみましょう。「音読は大切!」と生徒に説明するよりも、身をもって音読が大切なことを理解させれば、単調な音読であっても熱心に行ってくれるはずです。

イラスト: 深川 優



とっておきの英語 17

津田塾大学大学院 教授

野田 小枝子

Always be yourself.
I'll love you forever.

11歳の少年の日常

玉子を茹で、トーストや薬と一緒にトレイに載せて、その間にいなくなってしまった祖母を探しに行き、連れて帰って朝食の世話をする、それが終わると父親の古めかしいグローブを持ってボクシングのトレーニングへ行くのがビリーの日常でした。しかし、ビリーはボクシングなどより、隣でやっているバレエのレッスンのほうが気になります。父も兄のトニーもストの最中。映画は最初の10分間でビリーとその世界の中に私たちを引き込んでしまいます。祖母を見つけた場所の向こうで警官隊がピケを張っているのが見えます。

北東部訛りの英語

この映画の英語は、わかりにくさのハードルが高いです。というのも、舞台が英国北東部の炭鉱町ダーラム (Durham) であり、その土地の生の英語にこだわって、監督がその土地の言葉を完璧に話せる役者を使っているからです。主役のジェイミー・ベルが選ばれたときにも、ダンスの秀逸さだけでなく、この土地の出身であることが必須の条件でした。

ダーラム訛りでは、sonは「ソン」、comeは「コム」、understood は「ウンドラストウドウ」、Londonは「ルンドウン」のように聞こえます。

時代背景と階級差

この映画は、サッチャー首相の炭鉱閉鎖政策に反対して1984年3月から1985年3月にかけて、炭鉱夫組合が行った大規模ストを背景にしています。炭鉱夫であるビリーの父親も、組合のリーダーのトニーもストによる解決を望んで警官隊とぶつかっていて、scab (ス

ト破りをする人) を徹底的に軽蔑しています。ビリーの才能に気づいた父がオーディションに連れて行く旅費を稼ぐためスト破りをしようとして、トニーに止められる場面がありますが、父の決意の度合いがわかります。

ビリーの才能に気づき個人レッスンで、ロイヤル・バレエ・スクールのオーディションを受けるまでに育て上げたミセス・ウィルキンソンがビリーの家を訪ねてくる場面があります。ここでは、中流階級のミセス・ウィルソンに向けられる、近所の人たちの視線、トニーの言葉遣いなどに、上の階級への反感がにじみ出ています。

母の手紙

ウィルキンソン先生に言われて、ビリーは自分が大切にしているものをレッスンのときに持って来ます。そのひとつが母の手紙でした。母は少し前に亡くなり、18歳になったら読むようにとビリーに手紙を残していました。その手紙をビリーはもう覚えるほど何度も読んでしまっていました。

“ Mom: But please know that I was always there.

With you through everything.

With you through everything.

I always will be.

And I am proud to have known you.

And I'm proud that you were mine.

Always be yourself.

I'll love you forever.

(いつも自分らしくね。お母さんはいつまでもビリーが大好きよ。)

ビリーの中でいつも生きていくメッセージです。

邦題：『リトル・ダンサー』
原題：Billy Elliot
製作国：イギリス
製作年：2000年
監督：スティーヴン・ダルトリー
出演：ジェイミー・ベル
DVD：NBCユニバーサル・エンターテイメント
ジャパン

1984年、ストライキに揺れるイギリスの炭鉱町。ビリー・エリオットは、母を病気で亡くしたばかりだった。強くなって欲しいという父の願いで、ボクシング教室に通っていたが、ふとしたことから内緒でバレエを習うようになる。先生はビリーの才能を見抜くが…。苦難を乗り越え、バレエ・ダンサーを目指す少年の物語。

🎬 クリスマス

長い間のストで、暮らしは苦しくなります。母が弾いていたピアノも薪にしなければ暖が取れません。父がピアノを叩き壊すのをビリーはじっと見ています。「母さん、どう思うかな？」とビリー。「うるさい。母さんはもう死んだんだ」と父。

その後のクリスマスの食事の時、燃える薪を見て、父は泣いています。

その晩ビリーは、それまでバレエに反対していた父に挑むように自分の練習してきたバレエを踊って見せるのでした。

🎬 父とオーディションへ

母の形見の宝石類まで質に出し、父はなんとか旅費を工面し、2人でニューキャッスルまで出かけます。そのときのビリーと父のバスでの会話です。

“ Billy: So what's it like, like?
Dad: What's what like?
Billy: London.
Dad: I don't know, son. I've never made it past Durham.
Billy: Have you never been, like?
Dad: Why would I want to go to London?
Billy: It's a capital city.
Dad: Well, there's no mines in London.
Billy: Christ. Is that all you think about?

「ロンドンにも行ったことがない、別に炭鉱があるわけじゃないからな」という父に、「父さんはそれしか考えてないの?」という息子。2人の見ている世界の領域の違いを見せつけられます。

🎬 オーディションの面接で

ロイヤル・バレエ・スクールのオーディションの面接シーンはこの映画でもよく知られたシーンのひとつです。

ビリーはバレエを通しての表現力は素晴らしいのですが、面接では「よくわかりません」のような答えが多く、歯がゆい思いがするのですが、最後にビリーは、言葉を探しながらも雄弁に語り始めます。

“ Billy: ... but once I get going...
then I, like, forget everything...
...sort of disappear.
I sort of disappear.
Like I feel a change in me whole body.
Like there's a fire in me body.
I'm just there...flying...like a bird.
Like electricity.
Yeah...like electricity.”
(踊りだすと、みんな忘れて自分が消えてしまう。身体が変わってしまい火がついたような感じ、鳥のように飛んでいる感じ、まるで電気が流れている、そんな感じなんです。)

🎬 14年後

バレエ・ダンサーになったビリーが舞台の上で白鳥を舞い羽ばたくところで映画が終わります。何度見ても飽きない映画です。

(写真：PPS 通信社)

Understanding reactions: A talent?

Peter J. Collins
Tokai University



今ドキ

英語事情 19

さまざまなテーマについて、辞書に載っていないような、今ドキの英語について紹介する連載です。今号はSNSなどで使われるリアクションの表現について。

“Eeeeeee?”

I’ve lived in Japan for years, but am still fascinated by the many “reaction talents” I see on TV. We just don’t have anything like them in the US! Our home shopping hosts have nowhere near the energy of their Japanese counterparts, and we never see people in the corner of the screen nodding, wiping away a tear, or saying “Eeeeeee?”

It does seem, however, like social media outlets are turning most Americans into reaction talents. Whether on Facebook, Twitter, or in the comments sections on YouTube, everyone has something to say about everything – and English is evolving to accommodate this trend.

Yaaas is one of the most succinct reactions these days; it’s an enthusiastic way of saying “Yes!” and shows approval. If your friend looks good, say “Yaaas!” If they look really great, make it “Yaaaaasss!” in either speaking or writing. **Heard** is another efficient one-word reaction; it’s used the way “I hear you” has been, signalling “I understand what you’re saying.”

Goals is a one-word reaction used in much more specific contexts; it expresses envy. Your friend might post a photo of their business class seat on Facebook or their new gym body on Instagram. Posting “Goals” as a comment suggests “You met your goals; I hope I can meet those same goals someday!”

Other common reactions feel, at least to me, like overreactions, for example **I’m screaming** or **I’m crying**. These, along with **I’m dying**, are used when reacting emotionally and can be either positive or negative. Similarly, **I’m weak** is used to respond to something funny; it means “I’m weak from laughing so hard!”

Yaaas:

イエス! やったあ! もちろん! など。
Yesと同じ意味で、喜び嬉しさの感情を強調するときに使われる。

Heard:

そうだね、よく分かるよ、など。

Goals:

憧れるな~!
SNSで、自分の理想を実現した人に対して使われる。

I’m screaming /

I’m crying / I’m dying

もう叫びたいくらい!! / 涙がでそう! /
(笑いすぎて) 死にそう、など。
少し大げさな表現。

I’m weak:

面白すぎるんだけど!

Confusion or disbelief can be expressed with the adjective **shook**. You might hear someone say, “The Yankees lost the game last night – I’m shook!” This is a modification of “I’m shaken;” using the ungrammatical “shook” adds emphasis. **SMH**, an acronym for “shaking my head,” also indicates shock, but generally connotes disapproval, as in “You’re still using a flip phone? SMH.” Teens, in particular, use this three-letter term in both writing and speaking.

A stronger negative reaction is the **clapback** (one word). If you feel that you’ve been insulted, you may want to **clap back** (two words) with a sharp response. This term seems to have emerged from the rap song “Clap Back” in which the rapper Ja Rule warns others what will happen if they disrespect him.

In situations where it’s not worth clapping back, people commonly react with “**Whatever**.” The words mean “I don’t have a preference,” but the message is “It’s not worth my time to think about it.” **I can’t even** is just as dismissive; it’s a shortened form of “I can’t even deal with (someone or something).” A more final rejection is the popular **Bye, Felicia**. This phrase was originally a line in the 1995 film *Friday* and is now used even by younger generations who have never heard of the movie.

This brings me to one of my favorite reactions: **sipping tea**. This arose from a 2014 meme in which Kermit the Frog, a popular children’s character, sips tea while innocently saying, “But that’s not my business.” If a friend texts you the emoji combination of a frog followed by a cup of tea; it means “I’m really enjoying hearing all this gossip and pretending I don’t care!”

It’s fun, but sometimes tricky to keep up with current English reactions and understand their nuances. When I find myself SMH, though, I can always turn on my TV and hear the straightforward “Eeeee?”

shook:

なにかに動揺したり驚いたりしたときに使う表現。文法的には誤りだが、“I am shook!” (びっくりした!) というように使われる。

SMH:

それはないよ、あきれてものがいえないよ、など。十代がよく使う表現。

clapback / clap back:

悪口や、侮辱に対して言い返す場合に使われる。

Whatever:

どうでもいいよ、で?、別に、など。

I can’t even:

ヤ/ない。

Bye, Felicia:

じゃあね。どうでもいいと思っている人に対して、「もうあっち行って」と追い払う感じで使われる。

sipping tea:

うわさ話などを自分には関係ないと言いながら、楽しんでいる様子を表す。この表現は、“But that’s not my business.” というキャプション付きの、『セサミストリート』に登場するカエルのカーミットがお茶をすすっている画像が元になっている。



第17回

地球となかよしメッセージ

作品募集 (2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

応募期間 2019年7月1日～9月30日
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

作品
テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

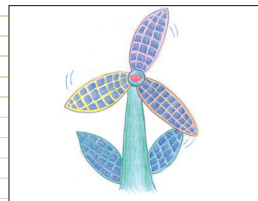
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

入選
前
回
作
品



地球を救う花

この地球を救う花は、まずお花なので二酸化炭素を吸って、酸素を出します。それに葉と花びらは太陽光パネルになっているので、発電も出来ます。さらに花びらの部分が風で回って、風力発電も出来る花です。

みんなが大好きな自然と地球が私達の何代も先の未来でも、愛されて続けるように、こんなお花が地球中にたくさん鮮やかに咲くといいと思いました。(中学3年)

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2019年 春号) 2019年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

印刷: 大日本印刷株式会社

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509

函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198

東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395

中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825

関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401

中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040

四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134

九州支社 〒812-0007 福岡市博多区2-11-30 クレセント東福岡E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140

沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

表紙イラスト: QUESTION No.6

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。